

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K21662

研究課題名(和文)日本の精神病床入院システムの実証研究と政策科学研究 歴史的アーカイブズ構築と共に

研究課題名(英文)Empirical Research and Policy Science on the System of the Japanese Psychiatric Hospitalization

研究代表者

後藤 基行(GOTO, MOTYUKI)

東京大学・先端科学技術研究センター・特任研究員

研究者番号：70722396

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、戦後日本においていかなる歴史過程の中で、精神科病床入院の大規模化・長期在院化が進んだかを検証することを目的とした。その結果、家族の入院承認(精神衛生法下の同意入院)を経た、公的扶助(生活保護法の医療扶助)セクターからの入院が戦後精神病床ストックの形成にとって最も重大なインパクトを持っていたことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の精神病床数は、実数においても人口比率においても世界的に最多となっている。また、在院期間も世界最長である。こうした日本の精神医療の在り方は、世界の標準的な形式から逸脱しており、日本政府も地域精神医療への改革を目指してきたが、全体的に成功したとは言い難い。しかし、そもそも何故日本にはこのような大規模な精神病床が存在するのか。本研究により、戦後日本の精神病床が実は財政的には生活保護での病床供給が最多であり、在院期間も社会保険より長期化することが明らかになった。すなわち、患者世帯の貧困問題が、病床削減を阻み、長期在院を解消できない根本にあることが分かってきたといえる。

研究成果の概要(英文): It is well known that the average length of stay in psychiatric care beds in Japan is the longest among the OECD countries. This research examined the historical process of the construction of the Japanese psychiatric beds supply.

As a result, it is revealed that the consent admission by the family which financially covered by the public assistance had the most important impact for the construction of the Japanese psychiatric beds.

研究分野：医療社会学、社会政策、精神医療史

キーワード：精神病床入院 医療扶助入院 精神衛生法 同意入院 精神医療史 長期在院 社会防衛

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

OECD (経済協力開発機構) が提供するデータによると、2011 年における日本の精神病床数は人口 10 万人当たり 269 床で、OECD 諸国の平均 68 床に比して突出して多く、実数 (34 万 5000 床) と共に世界最多となっている。同じように、現在、精神病床への在院期間についても日本が他国を大きく引き離して最長となっている。

こうした状況に対し、日本政府も精神病床数削減を同政策領域での最優先課題の 1 つとしてきたが、政策全体としてはここ 20 年ほどの改革は成功したとは言い難い。しかしながら、そもそもいかなる経緯の中で日本には巨大な精神病床ストックが構築されてきたのか。この問いは、先行研究では解明されたとは言い難く、政策立案過程でも歴史的省察が議論の土台になることはないといつてよい。

## 2. 研究の目的

本研究は、20 世紀初頭から後半期にかけて、日本の精神病床数が、いかにして現在のような 30 万規模の精神病床・精神科入院を形成するに至ったのかという論点に関し、新しい史的パースペクティブを提示することを目的とした。また、研究上関連する貴重な一次資料のアーカイブズ整備も目的とした。

## 3. 研究の方法

近代日本における精神医療史を、研究代表者が提起する「精神病床入院の 3 類型」という理論的解釈枠組みから再構成する。この 3 類型とは、精神病床入院が歴史的に包含してきた社会防衛、治療、社会福祉という機能を、それぞれ精神医療に関する特別法、各種社会保険 (私費含む)、公的扶助 (生活保護法) という医療費支払区分に操作的に対応させた分析枠組みである。

その上で、「精神病床入院の 3 類型」に従って近代日本における精神医療供給の展開の意味を考察し、時代ごとに精神病床・精神科入院がどの機能によって主に牽引されてきたかを考察する。このように、戦後の精神病床入院を財政的観点から区分し、その実態を行政文書・疫学個票・精神科診療録といった貴重な一次資料から明らかにする。

以上を通じ、日本の精神病床入院が何故にかくも大規模化したのか、という問いを考える上での基礎研究となることを目標とする。

一次資料のアーカイブズ整備については、未整理状態であった資料に ID を付し、データベースを作成して研究利用に際して便宜性を高めるとともに、中性紙・中性紙ボックスに封入することで長期保存が可能になるようにした。

## 4. 研究成果

「精神病床入院の 3 類型」に従って近代日本における精神医療供給の展開を整理した結果、精神病床入院の機能という観点からみて以下のことが分かった。

20 世紀前半期の日本の精神病床入院は、社会防衛型の入院機能を中核に成立しており、それに続いて治療型、残りの部分を社会福祉型が埋めていた。ただし、この時代の精神病床数は最多でも 2 万 4 千床程度で量的には非常に抑制されていた。

1950 年代から 1980 年前後の時期は、戦後日本の高水準の精神病床ストック形成期であり、今日にまで続く 30 万床の成立過程を分析する上で重要な意味をもっている。この 1950 年代半ばから 1980 年頃に形成された、日本の精神病床・精神科入院の特徴である

大規模な病床数と長期在院傾向は、家族による入院同意を経由した社会福祉型の入院によって最も牽引されて構築されてきたことが明らかとなった。

また、国立精神・神経医療研究センター（NCNP）が所蔵する歴史的な診療録や1950年・60年代の疫学資料に関してデジタル化措置や資料整理が行われ、長期保存の外形的措置が不十分さは残るとはいえ施された。研究調査過程で資料の新たな確認がなされた九州大学精神科神経科の歴史的な診療録についても、部分的にアーカイブズ整備が行われ、今後の展開につながっていくことが想定された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 後藤基行, 中村江里, 前田克実	4. 巻 50
2. 論文標題 戦時精神医療体制における傷痍軍人武蔵療養所と戦後病院精神医学 診療録に見る患者の実像と生活療法に与えた影響	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会事業史研究	6. 最初と最後の頁 143-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤基行, 安藤 道人	4. 巻 122(4)
2. 論文標題 生活保護による精神科長期入院：1956年『在院精神障害者実態調査』原票の分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神神経学雑誌	6. 最初と最後の頁 261 - 281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 基行	4. 巻 97
2. 論文標題 精神衛生法下の同意入院と現行医療保護入院 ケア義務からの「解放」という論点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神医療	6. 最初と最後の頁 83 - 93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Motoyuki Goto
2. 発表標題 The History of the Development of Psychiatric Beds in Japan
3. 学会等名 Winter School on the History of Psychiatry at the University of Sydney
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 後藤 基行
2. 発表標題 日本の精神科入院の歴史構造と今後の課題
3. 学会等名 医療・介護サービスを含む総合的な支援の研究会（国立社会保障・人口問題研究所）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 入院医療費支払区分別精神科特殊治療の比較
2. 発表標題 後藤 基行
3. 学会等名 第21回 日本精神医学史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後藤 基行、安藤 道人
2. 発表標題 医療扶助と精神障害者の長期入院 1956年『在院精神障害者実態調査』原票を用いた統計分析
3. 学会等名 第36回 日本社会精神医学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後藤 基行
2. 発表標題 精神病床における医療費支払区分別在院期間の歴史的分析
3. 学会等名 第20回 日本精神医学史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 後藤 基行
2. 発表標題 日本の精神科入院の歴史構造と「社会福祉」的入院 貧困と家族一
3. 学会等名 第45回 日本保健医療社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤 基行
2. 発表標題 精神医学史研究とアーカイブズの現況
3. 学会等名 第115回 日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoyuki Goto
2. 発表標題 Historical Analysis of the Japanese Psychiatric Beds Supply- Social Defense, Treatment, and Social Welfare
3. 学会等名 15th International Conference on the History of Science in East Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 後藤 基行	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 216
3. 書名 日本の精神科入院の歴史構造－社会防衛・治療・社会福祉	

1. 著者名 猪飼周平編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 288
3. 書名 羅針盤としての政策史 - 歴史研究からヘルスケア・福祉政策の展望を拓く	

1. 著者名 日本精神衛生会 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本精神衛生会	5. 総ページ数 156
3. 書名 図説日本の精神保健運動の歩み 改訂増補版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	安藤 道人  (Ando Michihito)  (10749162)	立教大学・経済学部・准教授   (32686)	